

「実験社会心理学研究」執筆・投稿規程

本則

本誌は、グループ・ダイナミクス、社会心理学における理論的・実証的・方法論的研究、基礎・応用研究、定量的・定性的研究に貢献する未公開の論文を掲載する。

第1条（投稿資格）

投稿の資格は、原則として、本学会員に限る。ただし、特集への投稿など、編集委員会が必要と認めた場合には、この限りではない。連名者に関しては、必要に応じ会員以外の者を含めることができる。

第2条（投稿できる論文）

投稿される論文は未公開のものに限る。定期刊行物(学術雑誌、商業雑誌、大学・研究所紀要など)や単行本として既刊、あるいは、これらに投稿中の論文は本誌に投稿できない。ただし、学会発表抄録や科研費等の研究報告書はその限りではない

第3条（論文種別）

論文の種別は、原著論文(Original Article)、資料論文(Short Article)、展望論文(Review Article)、Short Note に分けられる。

- ① 原著論文 問題提起と実験、調査、事例などに基づく研究成果、理論的考察と明確な結論をそなえた論文
- ② 資料論文 過去の研究成果に対する追加・吟味、新事実の発見、興味ある観察・事例報告、研究の遂行に有用な新たな方法、技術およびデータに関する報告など、資料的価値のある論文
- ③ 展望論文 グループ・ダイナミクス、社会心理学の重要なテーマについて、研究状況、主要成果、問題点等を解説し、研究の意義と今後の課題を論じる論文
- ④ Short Note 既に公開された研究成果の再現性検証、速報性を重視した報告、萌芽的発想に立つ報告などについて、英語で書かれた論文。詳細は別途 [「「実験社会心理学研究」 Short Note 投稿・編集規程」](#)に定める。

第4条（採否決定と修正）

投稿原稿の採否決定、および、修正は、編集委員会による審査を経て行われる。

第5条（投稿原稿の構成）

投稿原稿の構成は、原稿本文が日本語か英語かによらず、以下の通りとする。

- ① 第1ページには、論文の種別（原著、資料、展望、Short Note）、日本語の論文タイトルと著者名、所属、英語の論文タイトルと著者名、所属、および、著者の連絡先、謝辞を記す。論文タイトルと著者名に付す注（第14条参照）があればあわせて記載する。優秀学会発表賞の受賞論文の場合は、その旨も記載する。
- ② 第2ページには、日本語の論文タイトル、および、日本語の要約、日本語のキーワードを記す。
- ③ 第3ページ以降に、原稿本文が続く。
- ④ 本文の後に、引用文献・脚注・図・表などを置く。

- ⑤ 最終ページには、英語の論文タイトル、および、英語のアブストラクト、英語のキーワードを記す。

第6条（要約とキーワード）

日本語の要約は500字程度、英語のアブストラクトは100～175語、キーワードは、日本語、英語とも3～5語とする。

第7条（投稿方法）

投稿は、e-mailへの添付ファイルとして送信する。ファイルは、本文と図表を1つのファイルにまとめ、付録とする資料がある場合はそれとは別にまとめ、必要事項を記入した投稿論文チェックリスト【新規投稿用】と共に、MS-WordまたはPDF形式で編集事務局（jjesp-hen@groupdynamics.gr.jp）まで送信する。ファイルサイズが大きすぎるなどe-mailでの送信が困難な場合は、編集事務局にあらかじめ相談する。

第8条（原稿の判型）

本文と図表のファイルはA4判で作成する。図表については、横置きにすることを妨げない。

第9条（原稿の体裁）

本文の1ページは40文字×30行（縦置き）とする。図と表は、1ページに1つずつ書いて通し番号を付け、本文の後に置く。図と表には、それぞれ表1、表2、もしくは図1、図2のように通し番号をつけ、それらの表題も対応する図や表と同じページに明記する。

第10条（図表の挿入箇所指示）

表と図の挿入箇所は、本文中に、3行を用いて以下のように示す。

表1を挿入

第11条（付録の添付）

研究に用いた調査票、動画、音声、高解像度の写真、ローデータなど、本文と図表に含めるのは困難な資料や、審査の際に有用な資料を、付録として添付することができる。

第12条（特殊記号の使用制限）

本文中では、統計記号に慣例的にイタリック体を用いる場合などを除いて、原則として特殊記号は用いない。特殊記号を用いる場合は文章作成ソフトの機能を用いてそのように表記する。なお公刊の際、見出しはゴシック体となる。

第13条（引用文献）

引用文献は、本文中では、佐藤（1985）、（佐藤、1985）のように引用し、本文末尾にリストする。引用文献リストの記述スタイルに関する詳細は[日本心理学会（編）「執筆・投稿の手びき」](#)（最新版）の関連部分を参照のこと。

第14条（注）

注は原則として脚注とし、1から順に通し番号を付す。謝辞、学会発表抄録、科学研究費などの助成金、利益相反(COI: Conflict of Interest)、あるいは倫理審査に関する脚注は、論文タイトルに付す。投稿時と掲載時とで所属や氏名が異なる場合には、その著者名に掲載時の所属や氏名を付す。論文タイトルおよび著者名への脚注は、投稿原稿の第1ページのみに記載する。

第 15 条（英文校閲）

英語に関しては、英語を母国語とする人の校閲を経ること。

第 16 条（掲載ページ数）

原著論文は原則として機関誌掲載時 10 ページ以内、資料論文は機関誌掲載時 7 ページ以内、展望論文は原則として機関誌掲載時 16 ページ以内、Short Note は機関誌掲載時 4 ページ以内とする。なお、原著論文と展望論文については、編集委員会が必要とみなした場合にはこの限りではない。ただし、原則とするページを超過する場合、その扱いについては、別に定める内規に従うものとする。

第 17 条（付録の公開）

付録とする資料は、電子ジャーナルにおいて論文と合わせて公開することができる。投稿時に付したものに加え、審査過程で追加されたものも含めることができるが、必ず審査を受けたものに限る。

第 18 条（校正）

校正は初校のみ著者校正とし、記述は著者の責任とする。

第 19 条（別刷）

別刷を作成することができる。費用は著者負担とする。料金は別に定める。

第 20 条（データの保存）

本誌に掲載された論文の著者は、雑誌の刊行日から向こう 5 年間、論文中の記述を再現できるレベルのデータファイルを保存しなければならない。

第 21 条（著作権）

本誌に掲載された論文および付録とする資料の著作権は、日本グループ・ダイナミックス学会に帰属する。

附則

本規程の改定は、常任理事会にて立案し、理事会における出席者の 3 分の 2 以上の同意をもって決定する。この規程は 2017 年 10 月 1 日から施行される。

超過ページの取り扱いに関する内規

第 16 条に定められた機関誌掲載時ページを超過する場合の取り扱いについては、当該論文の著者が、超過ページ分の印刷代として 1 ページにつき 1 万円を学会に支払うこととする。

カラーの図に関する内規

電子ジャーナルにおいては、論文中の図表をカラーで掲載することができる。ただし、希望する場合は当該論文の著者が実費を学会に支払うこととする。

関連する規程等

[「実験社会心理学研究」編集・審査規程](#)

[「実験社会心理学研究」特集編集規程](#)

[「実験社会心理学研究」Short Note 投稿・編集規程](#)